

令和5年5月20日

令和5年度 第2回西宮市民ファミリーハイキング事業報告

奥アンツーカ（株）

【実施日時】 令和5年5月 13 日(土) 10:00～13:10

【実施概要・コース】

令和5年度の2回目のハイキングは、香櫨園駅を出発し夙川公園を歩いた後、急に標高が高くなる大手前大学付近で西宮断層の断層崖付近の道を進み、JR線を小さなマンボウトンネル（大谷道）でくぐり、まず、夙川カトリック教会を見学しました。続いて、谷崎潤一郎の小説にも出てくる平松町マンボウトンネルで再びJR線をくぐり、西宮市役所の南を通って、次に染殿という地名の由来となった染殿池を見た後、大関関寿庵に立ち寄り、古い海岸線の名残りが残る今津駅付近を通り、最後は今津駅で解散しました。（7.0km）

この日は、ファミリーを含む34名が参加しました。

見どころ1 大谷道(マンボウトンネル)

発足したての明治政府の威信をかけて行われた鉄道事業は、水田を横切るように路盤を建設しました。明治政府は、国民の反発を避けるために、主要な道路や農業用水路を分断させないよう、線路下に橋梁、用水路としての開渠や暗渠を多数確保しました。このうちの西宮地区の暗渠を現在「マンボウ」といいます。

西宮市域には暗渠の煉瓦アーチが、庄川（甲子園口）、中川（天道町）、長谷塚（六湛寺川）、平松、安井（建石筋）、東皿池（大谷町）の6か所あった。いずれも、開業当初（明治6年）からの構造物と言われています。このうち東皿池暗渠は大谷道、または大谷隧道といい、昭和4（1929）年、大谷町の耕地整理の際、地域の役員が鉄道局と交渉して現在の形になりました。脇にある顕徳碑は、これを記念して建てられたものです。

（にしのみやデジタルアーカイブ「大谷隧道」）



続いて、夙川カトリック教会を見学させていただきました。この日は、特別にカリヨンのある鐘楼と、地下の展示スペースを説明して頂きながら見学することができました。



見どころ2 夙川カトリック教会

阪神間初のカトリック教会として発足、ネオ・ゴシック様式の聖堂が1932年に完成しました。設計は梅木省三氏で、1945年から1963年まで大阪教区の臨時司教座聖堂としての役割を果たしました。1995年の阪神淡路大震災で大きな被害を受けましたが幸いにも倒壊を免れ、2012年には耐震・改修工事が完了し、夙川のシンボルとして壮観な外観とともに、美しいステンドグラスや鐘の音が人々に心の安らぎと祈りの場を提供しています。

夙川にゆかりのカトリック作家としては遠藤周作と須賀敦子がいいます。この教会は遠藤少年が母に連れられてキリスト教という西洋仕立てのぶかぶかの洋服を着せられるに至った場所として彼の作品にしばしば描かれ、遠藤文学の原点といわれています。須賀敦子は小林聖心で早くに洗礼を受けた後、一筋の道を求めてフランスへ旅立ちました。

（参考：カトリック夙川教会 HP <http://www.shukugawa.catholic.ne.jp/sp/contents/ayumi.html>）

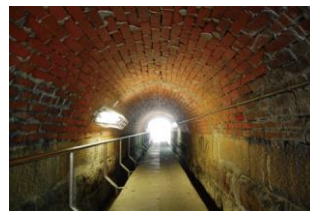


見どころ3 平松町のマンボウトンネル

「細雪」で有名になった”マンボウ”については、「細雪」の中に詳細な解説が書かれています。

「…（お春はマンボウと云う言葉を使ったが、これは現在関西の一部の人の間にしか通用しない古い方言である。意味はトンネルの短いようなものを指すので、今のガードなどと云う語がこれに当て敢まる。もと和蘭陀語のマンボウから出たのだそうで、左様に発音する人もあるが、京阪地方では一般に託って、お寺が云ったように云う。阪神国道の西宮市札場筋附近の北側には、省線電車と鉄道の堤防が東西に走っており、その堤防に、ガードと云うよりは小さい穴のような、人が辛うじて立って歩けるくらいな障道が一本穿ってあって、それがちょうどそのバスの停留場の所へ出るようになっている）…」。

（参考：谷崎潤一郎「細雪」）



続いて、今日2つ目の平松町のマンボウトンネルをくぐりました。さきほどの大谷道と比べるともう少し広いトンネルで、谷崎潤一郎の細雪にも出てくるトンネルです。このトンネルをくぐって、次は染殿池に向かいました。

少々、街中のハイキングは距離の割には疲れがたまってきますが、あと少し、頑張って大関関寿庵に向かいました。



見どころ4 染殿池

中国大陸から渡来した、アヤハトリ・クレハトリという織工が、染織のために用いた池と伝えられています。

この辺りは、かつて海に面する松原であったと言います。

松原神社の「老松の碑」は、二人の織工が、古松の下で海を望み、故郷を懐かしんだという伝承の名残です。歌に詠まれた名高い「角の松原」は、古の景勝地として江戸時代の地誌や絵図に表れます。

（染殿池 伝承地 看板より）



最後の立ち寄り先、大関関寿庵ではご協賛をいただき、酒饅頭の割引券を参加者の皆さんに配布。酒饅頭やお酒、ソフトクリームなど思い思いのものをみなさん購入され、最後は今津駅に向かって昔の海岸線の名残を確認し、今津駅で解散しました。

（約7.0km）



見どころ5 大関関寿庵

西宮市内にある有名酒蔵の一つ、大関株式会社。「ワンカップ」をはじめ、「大坂屋長兵衛」や「辛丹波」など、こだわりの日本酒を製造・販売しているほか、近年は、日本酒を用いた化粧品の販売などにも取り組んでいます。

そんな大関が運営する『甘辛の関寿庵』は、大関が醸す生原酒を量り売りで購入できるほか、日本酒を使った酒饅頭、酒カステラ、酒フィナンシェなどのお菓子や奈良漬などの珍味を販売しています。

加えて店内にある喫茶スペースでは、日本酒を使った個性的なお菓子やスイーツを気軽に味わいながらくつろぐことができます。

（参考：西宮市シティプロモーションポータルサイトまなび、すむまち。にしのみや）

<https://www.nishi.or.jp/smph/shisei/koho/citypromo/archive/city/area/nishinomiya-imadu/sekijuan20180828.html>



令和5年度 第2回ハイキング(夙川カトリック教会、マンボウトンネル、大関関寿庵)の行程図 (地理院地図より)

